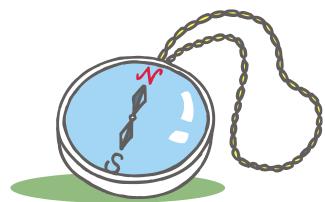


羅針盤



第36号

令和6年2月19日(月)

◆ 「雲外蒼天（うんがいそうてん）」

「雲外蒼天（うんがいそうてん）」この四字熟語は、昨年の11月13日に総理大臣公邸で岸田文雄総理より将棋棋士の藤井聰太（ふじいそうた）さんに対する内閣総理大臣顕彰式が行われたときに、藤井聰太さんからお礼の品として手渡された将棋の盤と駒を収めるための木箱に揮毫（きごう）されていた言葉です。昨年10月に、前人未到の将棋界では史上初となる八冠タイトル全制覇という「八冠」達成の偉業を果たした藤井聰太八冠に、岸田文雄総理は「多くの国民に夢や希望を与えるとともに、伝統的な文化である将棋の普及振興を通じて、我が国の文化の向上発展に貢献されたその功績は誠に顕著であります」と、日々の努力を惜しむことなく積み重ねてきた藤井八冠の姿勢そのものを称賛されました。これまでの功績を称えられるメッセージとともに、顕彰状と盾を手渡された藤井八冠は、これまでにも「大志」や「飛翔」といった言葉で自分自身の心意気を表現されてきました。昨年に初防衛を果たされた竜王戦後の会見では、「盤上に没頭して集中して考えるという感覚を大事にしていければ」という思いを込めて四字熟語「盤上没我（ばんじょうぼつか）」という言葉を掲げ、「八冠」として頂点の座を守り続けていく強い決意を示されています。今回、箱の裏に揮毫（きごう）された「雲外蒼天」。その言葉の文字通りの意味は、「雲を突き抜けたその先には、青空が広がっている」ということで、それが転じて、「努力して苦しみを乗り越えれば、すばらしい世界が待っている」といったことを指して使われています。わかりやすく言い換えると「困難を努力して乗り越えた先には、明るい未来がある」ということを表しているというわけです。また、英語で表現すると「There is always light behind the clouds.」となり、「目の前のこと、不安やめんどうだと思うことから、逃げずに努力する人であってほしい」という意味になります。藤井聰太八冠は、この言葉に、「雲の上には青空が広がっているということは、努力をしてさらに実力を高めていくことで、これまでと違った景色が見える」という思いを込めて木箱の裏に書かれたそうです。「雲の外には蒼い天が広がっている」ということを表しているわけですが、中国の古典がもととなってはいますが、日本ならではの四季豊かな風土で生まれた言葉であるとも言われているそうです。時に私たちは晴天を願いながらも、天上から降りしきる雨や雪を、しばしば恨めしく見上げたりもするものです。家族旅行で飛行機に乗ってみたときに、雨の空港を離陸して、雲を抜けて、陽光が窓からサッと差し込んだ瞬間、思わず「雲の上は晴れているんだ！？」と驚きながらも、どこか納得もしながら、感慨深い時間を過ごした経験をしたことがある人もいるのではないでしょうか。それは、まさしく「雲外蒼天」を実体験することができた瞬間と言えそうです。人生は、天気のように、自分の力ではどうにもならないことだらけです。どんな鬱陶しい雨にも必ず止む時が来て、厚い雲間から眩しい陽光が差し込んで来るよう、私たちが心がけて行うべき善行といったものが、いつしか天に通じて、「蒼天」が広がる日が必ずや訪れるに間違いはないはずです。そのことを信じて、周りの仲間とともに一日一日の「今」という瞬間（とき）を大切に生きて行くことを日ごろから忘れずに生活していくことが何よりも大切なことであるはずです。



必ず止む時が来て、厚い雲間から眩しい陽光が差し込んで来るよう、私たちが心がけて行うべき善行といったものが、いつしか天に通じて、「蒼天」が広がる日が必ずや訪れるに間違いはないはずです。そのことを信じて、周りの仲間とともに一日一日の「今」という瞬間（とき）を大切に生きて行くことを日ごろから忘れずに生活していくことが何よりも大切なことであるはずです。

